

# 除雪車オペレーターの声



降雪時に深夜から除雪車を出動させ、生活道路の交通を支えるオペレーター（運転手）。朝、私たちが目覚める前から積雪と戦うオペレーターも、近年の降雪に悩んでいると言います。市道の除雪に携わる人たちの中から中野市建設業協会の3人にお話を聞き、「雪に負けないまち」をつくるためのヒントを探します。

## 気が抜けない待機時間

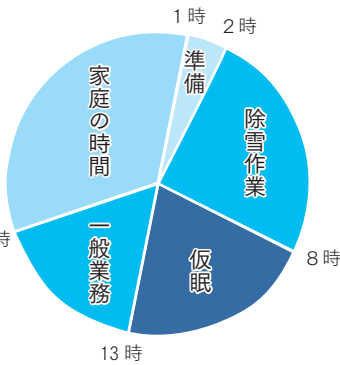
「私たちには、雪が降らなくても待機している時間があることを市民の皆さんにも知ってもらいたいです」と真剣な眼差しで語るのは、協会の会長を務める丸山さん。

「冬期間は、いつ雪が降るか分かりません。そのため、気が抜けない待機時間が多いです。年末や正月もお酒を飲まず、深夜の降雪状況をこまめに確認しています」

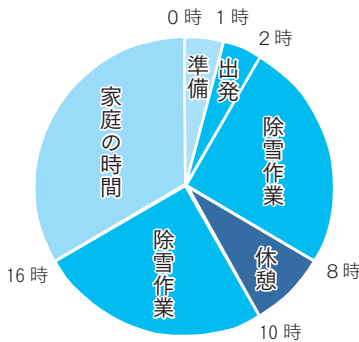
黒岩さんと高見澤さんもうなぎ「大雪警報が出ていても満天の星空が見えて

## 除雪車オペレーターの1日 (降雪時の例)

丸山さん・高見澤さんの場合  
(中野地域で深夜から朝にかけての降雪時)



黒岩さんの場合  
(豊田地域で降雪があった場合)



永田地域担当  
黒岩 正和さん

金井・若宮区担当  
丸山 隆英さん



高丘地域担当  
高見澤 新悟さん

## 道路には物を置かない

路上に障害物（木材、鋼材など）があると、除雪作業の事故につながります。また、道路にはみ出した庭木などは、伐採をお願いします。



## 除雪作業車に近寄らない

除雪作業車の30m以内は大変危険です。また、除雪作業車は前方10m以内が見えにくいので、車の無理な追い越しはやめましょう。

## 道路に雪を出さない

道路に出された雪は車などに踏み固められ、圧雪状態になります。でこぼこした路面は、車や歩行者の通行に危険を招きます。各家庭内の雪は各戸で除雪し、道路には絶対に出さないでください。





# “自然”が相手の除雪作業 “ご協力をお願いします”

いるときもあります。その様子を見て安心してしていると、明け方に突然ふぶいて驚くことも珍しくありません」と待機時間のエピソードを語り合います。

「特別豪雪地帯ではない中野市は、除雪作業を専属で行う人は少ないです。建設業と掛け持ちで除雪業務をする人が多いのが実情です」と右ページの図に記した降雪時のタイムスケジュールを教えてくださいました。

「夜遅くに除雪のための準備に動き出すと家族もつられて起きてきます。不規則な業務時間で家族にも負担を掛けるこの仕事は、敬遠する人が多く、後継者が少ないです。私たちが引退した後が心配です」と丸山さん。「雪が降らないと、今度は冬の仕事がなくなってしまう、生活を維持する

ために仕事を探す人もいます」と高見澤さんが語ると、3人とも浮かぬ表情を見せていました。

## 除雪の苦悩

近年の大雪は「短時間で多量の積雪」が特徴。「ゲリラ豪雪のときは、通勤時間などの時間帯までに除雪が間に合わないんです」と顔を曇らせる高見澤さん。交通量の多くなる通勤・通学の時間帯は、事故防止のために除雪作業は行えなくなり、「危険を回避するためには作業を中断しなければなりません。もちろん、交通量が落ち着いた時間に作業を再開します」と黒岩さん。

また、別の問題として「住宅が増えて、空き地などの除雪した雪を仮置きする場

所が減っています。そのため、たくさん雪を離れた場所に運ばなければなりません。雪を多く抱え込むと十分な除雪ができなくなり、雪がこぼれます」と丸山さんは説明します。

「自然」が相手の除雪作業。思いどおりに作業ができず、オペレーターたちにも多くの苦悩があるようです。果たして、完璧な除雪が『当たり前』なのか。

最後に3人は「道路を誰かが除雪しなければ、冬の生活は成り立ちません。私たちは、仕事として除雪を行っているですが、それだけの理由で努力しているわけではありません。中野市の冬の生活道路をより良く機能させたい、その思いで頑張っているんです」と熱く語ってくれました。

## 屋根の雪下ろしをしたら、片付けましょう

屋根から道路に落ちた雪は、火災などの緊急時や交通事故の防止に備え、各戸で片付けをお願いします。

## 除雪後に残された雪は

道路除雪でこぼれた雪が玄関や車庫前などで支障になる場合は、各戸で片付けをお願いします。

排雪場をご利用ください ※出入口に案内板を設置します

